

# 歴史の交差点

神田外語大学客員教授 山内昌之



歴史学の研究では十二分に論博雄氏は「孝明天皇と痘瘡」な  
じられていないテーマが多い。幕末の孝明天皇の死をめぐる謎もその一つであろう。大きく言えは、病死か毒殺かということだ。毒殺説はひとまずおいてお

前発疹期から12日で結痂期になるのは、通常型痘瘡の経過とほぼ一致しており、病状も回復途上にあつたとされる。食も19日には「湯之下御一碗」だったのが、23日には片栗粉菓子・おひたし・干し飯1碗・もろこし

## 孝明天皇の死因

く。病死説とは、天皇が痘瘡とくに悪質な紫斑性痘瘡ないし出血性膿疱性痘瘡によって死亡したという説である。この二つとも出血性痘瘡と呼ばれるものだ。ところが最近、医学者の橋本

6粒などになり、食欲も回復していった。孝明天皇は23日まで通常型痘瘡の経過をたどっていたのに、24日に急に容体が変わり、25日には死亡した。ある史料には、「御九穴より御脱血」とあるので、主として

なるというのだ。橋本氏はニュージーランドの医学者の説にも依拠しながら、天皇の痘瘡が予後良好の通常型で痘疹から出血した可能性があることを紹介する。その後の症状は通常型の通りに進み、紫斑も自然に消えてしまう。いずれにせよ、天皇が日を追って回復していく様子は諸種の日記にも書かれている。祈禱にあつた湛海僧正の日記では、20日に天皇の具合がだいぶ回復し、30両の謝礼が「下しおかれ」た。21日の典医日記には、「もう峠は越した。後はご快復を待つばかり」とあつたのに、24日夕から橋本氏に敬意を表しておきたい。(やまうち まさゆき)